

腰仙移行椎保有例を対象としたJacoby線の調査 ～腰椎5椎例と腰椎6椎例を比較して～



圓城寺 謙太
のかおい整形外科リハビリテーション科

COI開示

開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

背景

腰仙移行椎の保有率は10%前後と報告されている。腰椎5椎例ではJacoby線の高さとは下位腰椎変性度の報告がされているが腰椎6椎例や腰仙移行椎例の報告は見当たらない。

目的

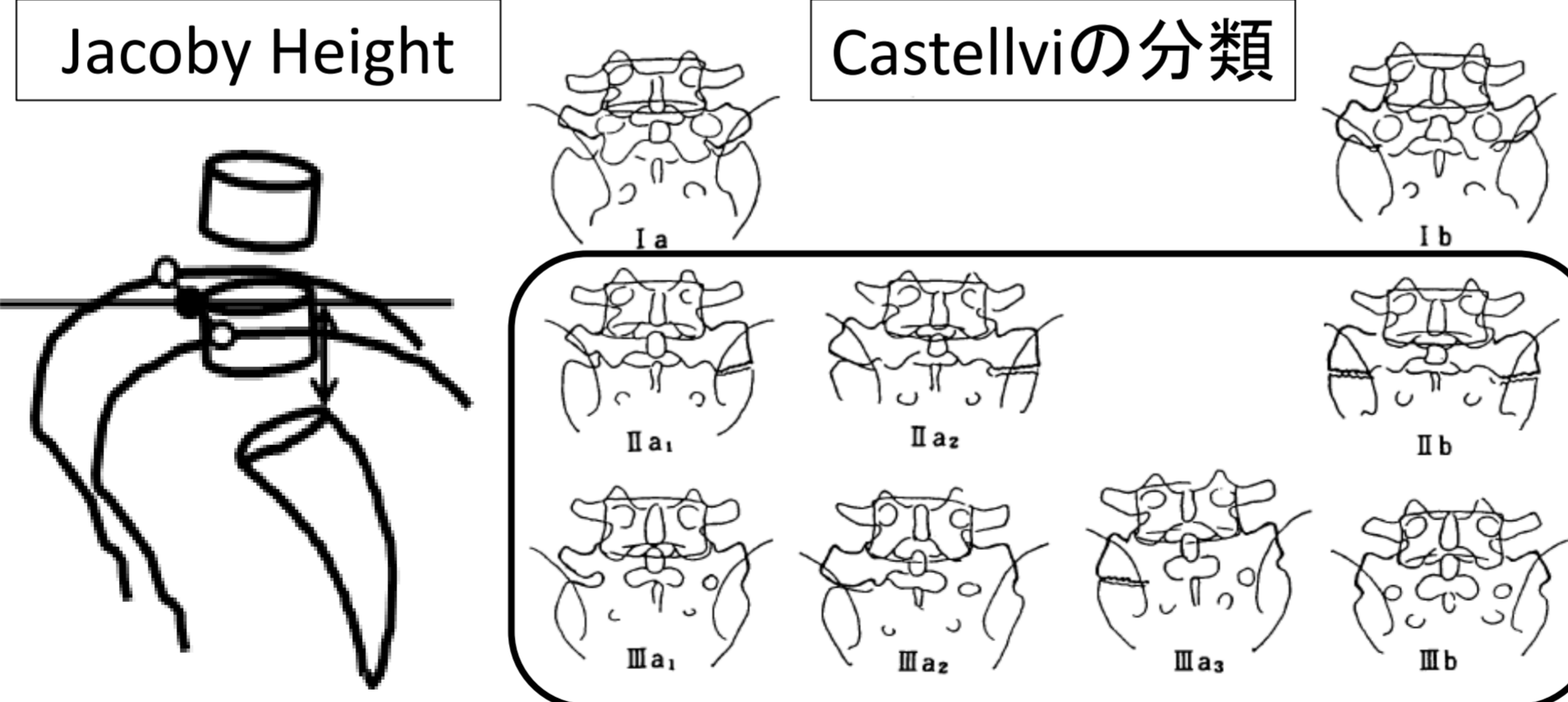
腰仙移行椎保有例のうちCastellviの分類で関節、癒合型を対象に腰椎5椎例と腰椎6椎例のJacoby線の高さを調査したので報告する。

対象

	A群	B群	対照群
人数(人)	66	51	133
年齢(歳)	44.6±16.6	44.9±16.8	58.4±15.7
男:女(人)	25:41	26:25	63:70

方法

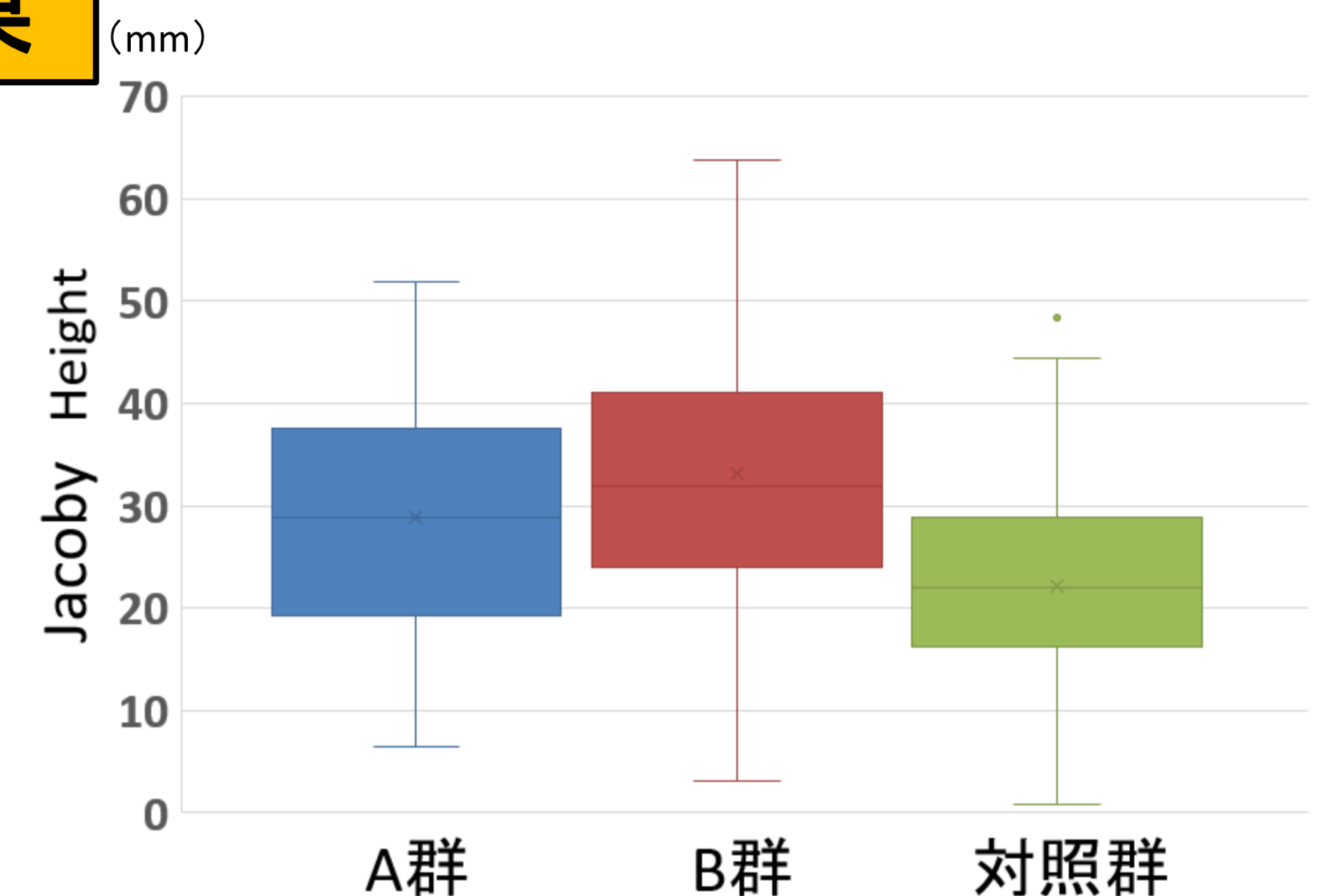
計測は立位単純X線画像を用いた。左右の腸骨稜最上縁を結んだ線の中点を通り、画像に平行な線を引き、これを側面像でのJacoby線とした。仙椎の後上縁よりJacoby線までの距離を計測しこれをJacoby Heightとした。
調査は①A群とB群間、②A群と対照群間、③B群と対照群間でJacoby Heightを比較した。



結果

Jacoby Heightの平均値はA群で28.9±11.3mm B群33.1±11.9mm、対照群で22.2±9.4mmだった。
A群とB群間では有意差がみられなかったがA群と対照群間、B群と対照群間では有意差がみられた。

結果



考察

第6腰椎は第1仙椎が腰椎化したものである。

腰椎6椎症例の仙骨は第2仙椎以下で形成されるためJacoby Heightが大きい。

Jacoby線より下に位置する椎体は骨盤による支持性が高く、動きが制限されると報告されている。

腰仙移行椎保有例はJacoby Heightが大きい結果から腰仙部の支持性が高いと示唆される。